

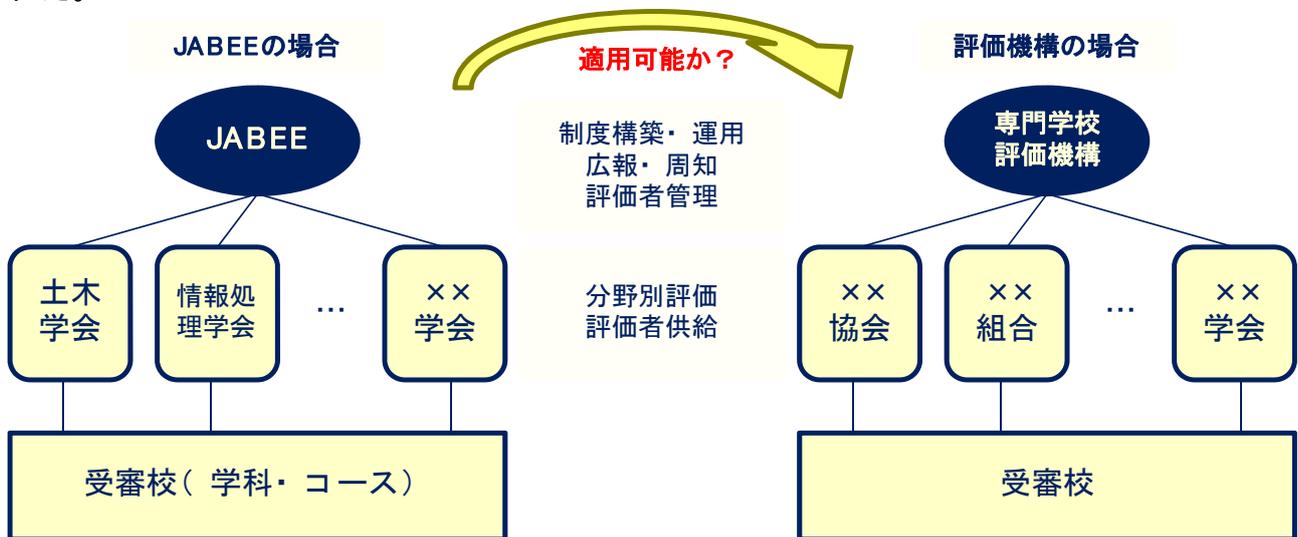
平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	産業界の支援を受けた専門学校評価者育成と評価制度モデルの研究		
法人名	(社)東京都専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 小林 光俊	担当者 連絡先	事務局次長 有我 明則 03-3378-9601
1. 事業の概要（300～500字程度）			
<p>本事業は、産業界の支援を受けることで専門学校の特徴を活かした第三者評価制度のあり方を研究するものである。この目的のために、当協会を構成する主要な専門学校、実際に専門学校の第三者評価制度を構築・運用している（特）私立専門学校等評価研究機構、有識者から成る実施委員会を組織し、研究を行った。具体的には、まず、業界団体等との連携によって学校評価者を供給・育成する仕組みを研究し、その育成プログラムを開発した。次に、業界団体等が評価プロセスに関与するなどの仕組みを持った専門分野別・成果評価の仕組みを研究し、そのモデルについて検討した。検討の結果およびそのモデルのもとで機能する評価者を育成するプログラムと教材を開発し、それを使用した実証講座を実施し、その効果を確認した。</p> <p>なお、研究成果は、評価者育成プログラムの講座実施、研究成果報告会の開催等によって、業界団体関係者、各都道府県の専修学校・各種学校の共益団体等と連携体制を構築し、専門学校関係者などに対して普及を図る。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
① 開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>分野別成果評価の先行事例として、日本技術者教育認定機構（JABEE）が行っている第三者評価についてヒアリング等を通じた調査を行い、この調査結果を基にして、まず、専門学校の分野別評価制度のモデルを研究した。具体的には、制度の基となる項目、すなわち、「評価の対象」「専門分野の定義」「評価の枠組み」「評価の観点」「評価の方法・項目」「評価の手順」「評価者」「評価の手数料」「認定の形」について議論し、新しい制度の要件を提示した。</p> <p>また、上記要件を満たす専門分野別評価制度が確立された状況を想定し、そこで多数必要になる評価者をどのように育成したらよいかを議論し、それらを踏まえた評価者育成プログラムを開発した。また、そのプログラムを実施する際に必要となる評価者育成教材を開発した。</p> <p>この教材は、第三者評価の社会的意義、第三者評価制度の現状を解説した上で、（特）私立専門学校等評価研究機構の第三者評価制度を詳細に解説し、制度化へ向けた専門分野別評価の要件や課題について解説する内容となっている。</p>			

## ②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

本事業では、まず、我が国における専門分野別の第三者評価の先行事例として、日本技術者教育認定機構（JABEE）が行う第三者評価について詳細な調査を行い、その制度的な側面を押さえた。その結果、JABEE の制度では、対象となる教育プログラムの評価の実体部分について、分野ごとに決まっている学会等の機関にアウトソーシングしていることが分かった。本事業では、この仕組みを専門学校分野別評価に応用できないか、すなわち、学会等の機関に代えて、当該業界の人材育成に明るい業界団体等の組織が評価を行うようにできないかと考え、JABEE 及び日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）に対するヒアリングを実施した。

ヒアリングの結果、技術者教育と職業教育の違いはあるが、基本的なスキームは応用可能ではないか、JUAS としてもその考え方には協力的であるとの感触を得た。ただし、同時に、専門学校の教育領域は幅広く、分野をどのように定義するか、その場合の各分野における評価主体をどこにしたらよいか、また、その管理をどうするかといった課題も提起された。



## ③実証講座の状況

実証講座の実施は以下の通りである。

- 期 間：平成 22 年 1 月 26 日
- 場 所：アルカディア市ヶ谷
- 被験者：専門学校関係者 23 名
- 教 材：本事業で開発した「評価者育成教材」
- 内 容：
  - 1 第三者評価制度の概要（社会的意義、既存制度の概観等）
  - 2 専門学校の第三者評価制度（私立専門学校等評価研究機構の制度）
  - 3 専門分野別評価制度の構築へ向けた動向など
- 結 果：
  - ・内容については、満足度、役立ち度、理解度、勧奨度いずれも高い評価を得た。
  - ・個別項目の理解については、上記 1～3 いずれの理解度も高かった。
  - ・ただし、評価者としてやっていけるか？については消極的な回答状況であった。

④その他

3. 事業の評価に関する項目

①r 目的・重点事項の達成状況

実証講座終了後に実施したアンケートの回答状況は次の表のようなものであった。

内容	質問	回答状況
内容	講座を受講したことに満足か	約 65%が満足と回答
	講座で受講したことが役立つか	約 74%が役立つと回答
	講座の学習内容を理解できたか	約 91%が理解できたと回答
	講座の受講を他の人に勧めたいか	約 52%が勧めたいと回答
個別項目の理解	一般の第三者評価制度を理解できたか	約 78%が理解できたと回答
	大学等の第三者評価制度を理解できたか	約 83%が理解できたと回答
	専門学校等の第三者評価制度を理解できたか	約 83%が理解できたと回答
	専門学校等評価基準を理解できたか	約 87%が理解できたと回答
その他	評価者としてやっていけるか	約 35%が肯定的に回答
	機関別評価と分野別評価の違いを理解できたか	約 70%が理解できたと回答

全体を通じ、理解度については非常に高い評価を得た。その意味で、開発した評価者育成教材の効果は大きいことが確認された。

②事業の成果

調査においては、日本技術者教育認定機構（JABEE）および日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）に対するヒアリングを実施し、JABEE の評価制度が専門学校の分野別評価制度に応用できる点が多いこと、また、その際必要となる業界団体の協力も得られやすい状況にあることを明らかにした。

モデル研究では、調査結果なども参考にして、本事業の趣旨に叶う専門分野別評価の要件を明らかにできた。具体的には「評価の対象」「専門分野の定義」「評価の枠組み」「評価の観点」「評価の項目」「評価の手順」「評価者の人数と構成」「評価の手数料」「認定の形」である。このうち「評価の項目」は、「学習・教育目標の設定と公開」・「学習・教育の量」・「教育手段」・「教育環境」・「学習・教育目標の達成」・「教育改善」そして「分野別要件」の各項目を柱とする内容である。

次に、専門分野別評価制度の下で評価者を育成する状況を想定し、その育成プログラムおよびそのプログラムで必要となる教材を開発した。この教材は、第三者評価の社会的意義、第三者評価制度の現状を解説した上で、（特）私立専門学校等評価研究機構の第三者評価制度を詳細に解説し、制度化へ向けた専門分野別評価の要件や課題について解説する内容となっている。

最後に、この教材を使用した実証講座を実施した。その結果、被験者から、「教材の内容を理解できた」、「役立った」との高い評価を得た。なお、講座後に被験者を対象として実施したアンケートにおける自由記述から、分野別評価の実現における課題として、「公平な評価者の確保が難しい」という点と、「分野の具体化に対する疑問」という点の二つ

に意見が集約された。これらの意見内容は、上記の「専門分野別評価の要件」の洗い出し作業においても留意した点であり、本事業の目的と矛盾するものではないことが確かめられた。

### ③次年度以降における課題・展開

本事業を実施した結果、専門分野別評価制度の構築の礎を構築できた。次年度以降、本事業で提示したモデル、すなわち、専門分野別評価制度の要件を一つひとつ解決していきたい。また、本事業の成果を各専門学校に伝達することによって普及啓発を図りながら、1～2年後を目標に、専門学校らしい分野別評価制度の構築を実現したい。

### ④成果の普及

#### ■成果報告会

平成22年2月25日（木）にグランドヒル市ヶ谷にて、社団法人東京都専修学校各種学校協会およびNPO法人CBTコンソーシアムとの共催による合同成果報告会として実施した。

報告者は、本協会の他、学校法人秋葉学園、学校法人帯広コア学園、社団法人大阪府専修学校各種学校連合会の4法人、内容は8事業の成果報告であった。

成果報告会の開催案内は、東京都専修学校各種学校協会から769件（東京、千葉、神奈川、埼玉、群馬の専門学校）、CBTコンソーシアムから332件（全国のIT系専門学校）、郵送で行われた。当日の参加者数は64名であった。

#### ■成果物

- ①事業実施報告書
- ②評価者育成教材